

平成20年 ホッケ計量魚群探知機調査報告

北海道立稚内水産試験場資源管理部 電話：0162-32-7166

- ・5月12～15日に仙法志堆海域（折込根・利尻根周辺）において、試験調査船北洋丸により計量魚群探知機調査を実施し、音響データを収集しました。
- ・水温は、折込根では7.3～8.9℃（30m～表面まで）、利尻根では5.4～8.5℃でした（50m～表面まで）。水温は昨年と比べると、表面を除き、約1～2℃低くなっていました（図1）。一昨年と比べると、50mを除き約1℃高くなっていました。
- ・計量魚群探知機によって推定されたホッケ以外の魚を含めた魚群の全体量は、折込根では昨年よりも大きく減少しました。利尻根では昨年および一昨年のほぼ中間の値でした（図2）。
- ・利尻根・折込根それぞれで釣獲調査も行いました（表1）。釣れたホッケは、折込根で2個体（体長272～284mm）、利尻根で3個体（体長256～264mm）と過去3年間の中では最小の尾数でした。最も釣れたのはアカガヤで、折込根で9個体、利尻根で17個体でした。
- ・この時期ホッケの重要な餌の一つである大型動物プランクトン（図3）の分布量は、昨年の65個体/m³より減少し、今年は8個体/m³でした。
- ・推定された魚群量が昨年よりも減少したこと、ホッケの釣果も悪かったことなどから、今年この時期の仙法志堆海域におけるホッケの分布量は少ないと考えられます。これは、水温（特に底層水温）が低いこと、餌となる大型動物プランクトンの分布量が少ないことなどによるものと考えられます。水産試験場では今後も各漁場におけるホッケ魚の状況を注視していきます。

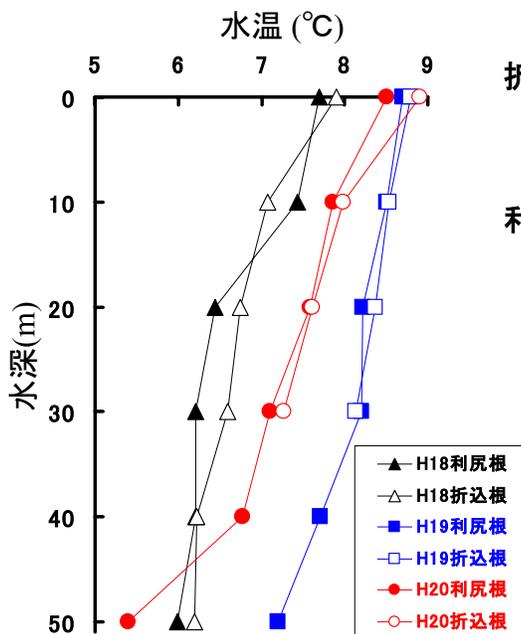


図1. 調査海域における水温

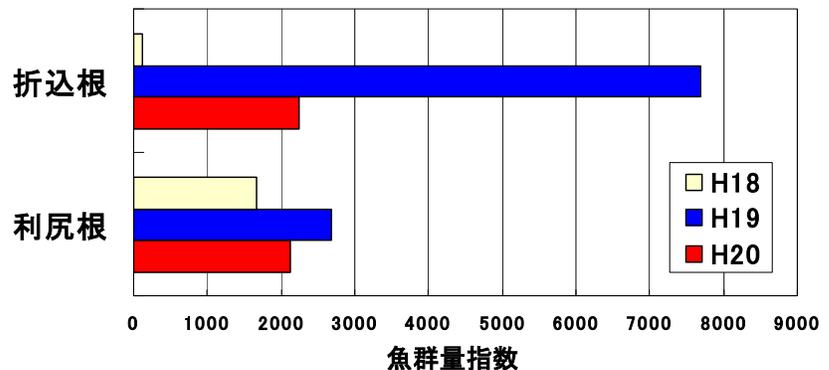


図2. 計量魚探で推定された魚群量指数

* 魚群量指数: 魚の総量を魚探反応を基準にして表した数値です。



図3. ホッケの重要な餌の一つである大型動物プランクトン（体長約7mm）

表1. 仙法志堆の釣獲物個体数

魚種	平成18年		平成19年		平成20年	
	折込根	利尻根	折込根	利尻根	折込根	利尻根
ホッケ	7	2	105	44	2	3
ハツメ	0	0	49	35	0	0
アカガヤ	6	0	1	0	9	17
メバル類	0	2	5	5	4	0
カジカ類	0	8	1	0	2	4